

1:25,000 活断層図作成(全国活断層帯情報整備)について

1. 1:25,000 活断層図について

平成7年兵庫県南部地震による「阪神・淡路大震災」を契機として、平成7年から都市域とその周辺の「1:25,000 都市圏活断層図」を作成しています。平成29年10月からは、都市域に限らず主要活断層帯*を優先として整備を進めていることから、名称を「1:25,000 活断層図」に変更しました。

活断層図に表示している活断層の位置・形状等については、学識経験者から構成される「全国活断層帯情報整備検討委員会」を設置して検討しています。

- ・全国活断層帯情報整備検討委員会 委員名簿 (<https://www.gsi.go.jp/common/000272741.pdf>)

作成した活断層図は、地震調査研究推進本部における活断層の長期評価、地域評価、地方公共団体における各種ハザードマップ作成や住民の防災意識の向上など、防災・減災施策のための基礎資料として活用されています。

なお、活断層図は、空中写真等を利用した地形調査により作成しています。このため、原則として地形に現れていないものは表示していません。また、いつ活動したかの調査は行っていません。

※主要活断層帯：地震調査研究推進本部が、活動度や活動した際の社会への影響度等を考慮し、基盤的な調査対象として選定した114断層帯。国土地理院では、このうち陸域の109断層帯を1:25,000活断層図の整備対象としています。

2. 活断層図の主な内容

活断層図は、空中写真や詳細な地形データ等を利用した地形調査により作成しており、活断層*と関連する地形を表示しています。

※活断層：最近数十万年前以降、概ね千年から数万年の周期で繰り返し動いてきた跡が地形に現れ、今後も活動を繰り返すと考えられる断層。

活断層図には、地形的な特徴により明確に特定できたものを活断層として表示しており、一部地形的な特徴により活断層の存在が推定されるが明確には特定できなかったものを推定活断層として表示しています。

また、活断層と関連する段丘、沖積低地、地すべりなどの地形も表示しています。詳細は以下を参照ください。活断層図に表示している内容については、活断層図Q&A もご参照ください。

- ・記号一覧 (<https://www.gsi.go.jp/common/000084060.pdf>)
- ・活断層図Q&A (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/faq.html>)

【注意】

活断層の存在や位置を確実に確認する必要がある場合や、過去の地震発生履歴を確認したい場合には、地質調査等による詳細な調査が行われます。



活断層の主な調査方法

図の出典：
地震調査研究推進本部HP

3. 1:25,000 活断層図の公開状況

全国で249面(令和7年12月23日現在)の図を国土地理院のウェブページから公開しています。

※活断層図(都市圏活断層図)整備一覧のウェブページ

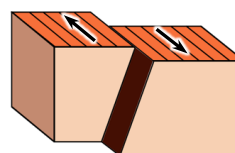
(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/inspection.html>)

4. 施策の位置付け

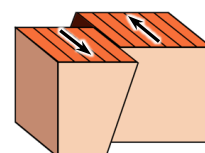
本施策は、政府の地震調査研究推進本部により令和元年5月に策定された「地震調査研究の推進について―地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策(第3期)―」及び科学技術・学術審議会により令和5年12月に建議された「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第3次)の推進について」において調査の必要性が位置付けられています。また、防災基本計画(昭和38年6月策定、令和7年7月修正)においても、活断層等に関する広報資料の作成、提供等に努めるものとされています。

5. 用語の説明

- ・横ずれ: 活断層の相対的な水平方向の変位の向き。断層線に向かって手前側に立った時、向こう側が右にずれた状態のものを右横ずれ断層、左にずれた状態のものを左横ずれ断層と呼ぶ。1:25,000 活断層図(以下「本図」という)では、変位の向きを赤い矢印で表示。

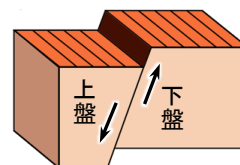


右横ずれ断層

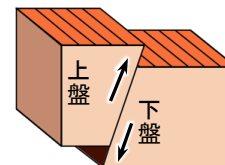


左横ずれ断層

- ・縦ずれ: 断層の上下方向の変位の向き。本図では、相対的に低下している側に短線を表示。

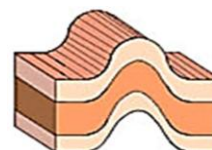


縦ずれ断層(正断層)

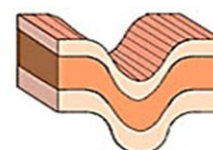


縦ずれ断層(逆断層)

- ・活褶曲^{しゅうきよく}: 現在も続いている地殻変動により生じている波状地形。本図では、凸部また凹部を連ねた線で図示。波状地形の凸部を背斜、凹部を向斜と呼ぶ。

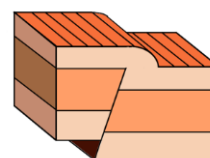


活褶曲(背斜)



活褶曲(向斜)

- ・活撓曲^{とうきよく}: 活断層のうち、変位が柔らかい地層内で拡散し、地表には段差ではなくたわみとして表れたもの。本図では、たわみの範囲及び傾斜方向を示す。



活撓曲

- ・雁行^{がんこう}: 複数の断層が片仮名の「ミ」の字、あるいは「杉」の字のつくりの形に配列すること。前者を右雁行、後者を左雁行と呼ぶ。

- ・傾動^{けいどう}: 断層運動によって上盤(傾斜する断層面上側の岩盤)の地表面が、特定の方向に傾斜した状態のこと。